

当院の入退院支援の取り組み

当院では、入院前から入院支援および退院支援を行っています。

入院して病気は良くなった、そろそろ退院と言われたけど、入院したことによって、退院後の生活にいろいろ不安がある。

例えば

トイレや入浴が一人では難しい

インスリン注射や酸素などの医療処置が必要になった

介護が必要になったが、家族も高齢で負担が大きい

日中自宅で一人にさせるのが心配

リハビリのための転院が必要になった

この他にも、このまま家に帰るのは心配・・・という方がいらっしゃいます。

当院では、入退院支援の必要の有無を入院前から予測し、可能な限り住み慣れた自宅へ帰れるよう支援しています。

また自宅に帰ることが難しく、退院後の療養先の変更が必要な場合は、状態やニーズに合わせた療養先を検討しています。

各病棟には退院支援専任職員として、患者支援センターの看護師と医療ソーシャルワーカーが配置されています。互いに専門性を発揮し、主治医や病棟スタッフと共に退院支援を行っています。



入院中に退院後のご相談がある方は、早めに病棟看護師にお声がけください。

医事課からの
お知らせ

～診療費のお支払い方法について～

今年6月からのデビットカードに加え、7月からは、各種電子マネー（交通系のPASMO・SuicaほかiD、QUICPay等）での決済機能を利用いただけるようになります。詳しくは、会計窓口でご確認ください。注) 電子マネーのチャージは対応していません

♪ お問い合わせ 患者支援センター ♪

♪ たまなんミニ通信をご希望の方は、患者支援センター地域連携部門までお問い合わせください ♪

当院での腹腔鏡下ヘルニア手術

「^{そけい}鼠径ヘルニア」とは本来ならお腹の中にあるはずの小腸などの一部が、ももの付け根（鼠径部）の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。いわゆる「脱腸」です。

鼠径ヘルニアになりやすい人

加齢

- 特に40歳以上の男性

日常生活で

- よく咳をする人、過度な運動をする人

職業で

- お腹に力がかかる仕事、立ち仕事に従事する人

疾患

- 肥満、前立腺肥大、便秘症、喘息など

症状

初期の鼠径ヘルニアの症状

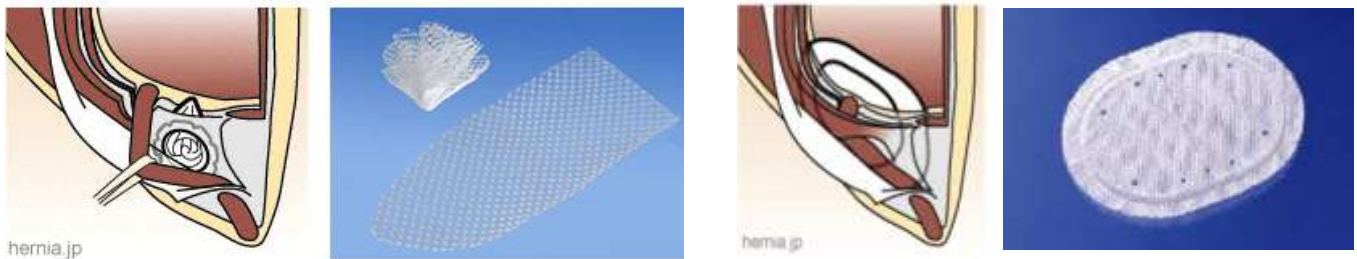
- 押すともとに戻る柔らかい膨らみ
- 突っ張り感
- 不快感や違和感
- 引っ張られる感覚

進行した鼠径ヘルニアの症状

- 膨らみが硬くなりもとに戻らない
- 強い痛み
- 吐気



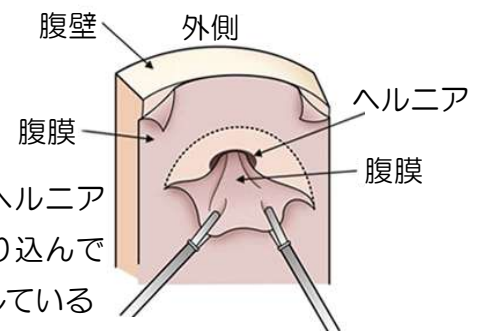
ヘルニアは手術でしか治療できない病気です。弱くなった膜を補強するために Mesh と呼ばれる補強材にて修復します。



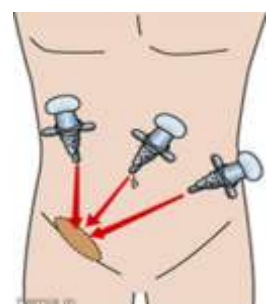
このような補強材を用いて、腸などが出てくるのを防ぐ手術をします。

当院では創部が小さく、ヘルニアの穴を確実に診断できる腹腔鏡下での治療を行っています。

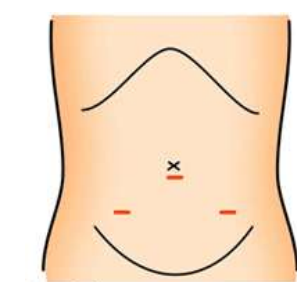
腹腔内からのイメージ



腹膜を切開しヘルニアのくぼみに入り込んでいる腹膜を戻している



腹腔鏡による手術



手術後の傷のイメージ

外科 医員 玉置 秀司

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずは、かかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。